

保健所長ヒアリング調査について

1. 目的

アンケート調査の結果を踏まえ、アンケートに回答のあった保健所長経験者のうち、追加的に情報が把握可能と考えられる方を対象に、アンケートで把握が難しい定性的な情報を把握することを目的として実施した。

2. 調査対象

調査候対象 (匿名化)	実施時期	概要
A	3月1日	ほとんどの項目に記載がされており記憶が鮮明と考えられるため。また、ディスプレイの導入の経緯について把握可能か。 ただし、調査対象時期には保健所長ではなく職員として勤務していた方である。
B	3月6日	情報源として国の法令等や都道府県の条例が挙げられており当時の情報について把握可能か。
C	3月25日	毎年、市町村長から書類で実施計画を提出させて、会議を実施。指導を実施した。
D	3月25日	保健所管内で肝炎多発地域があり。肝炎特別対策事業に保健所としても携わった。

3. 結果の概要

調査対象 (匿名化)	ヒアリング結果
A	<ul style="list-style-type: none"> ■ B型肝炎に関する情報を収集したのは、昭和 44 (1969) 年 4 月～昭和 52 (1977) 年 3 月の間。内科関係の雑誌や医事新報などで把握した。 ■ ●●県においては、予防接種でのディスポの使用は遅かったと記憶している。 ■ 自分は平成 3 年に保健所長であった。その時は既にディスポであった。過去の導入の経緯はわからない。
B	<ul style="list-style-type: none"> ■ 国や都道府県などから保健所に通知等はきたが、いつごろどのような内容であったかまでは覚えていない。 ■ 当時の学会を中心とした肝炎の研究は広島大学の公衆衛生学教室が中心であった。 ■ 昭和 61 年に大学を卒業し、●●県内の保健所勤務。注射針・筒の連続使用はいけないということについては、その当時には認識があったと考える。 ■ 県としては、それほど先進的に一人一針ということについて取組みが進んでいたということはない。 ■ 自分のところには、感染が疑われる例について、特段の相談はなかった。
C	<ul style="list-style-type: none"> ■ B型肝炎に関する情報を収集したのは、昭和 44 (1969) 年 4 月～昭和 52 (1977) 年 3 月の間である。詳細時期は不明である。 ■ 自分自身は臨床系ではないので、内科系雑誌ではなく、公衆衛生学会等の論文や雑誌などで把握した。 ■ 情報源については、B 型肝炎についての継続的な研究や学会発表があったという状況ではなく、何かあれば情報として出されるという状況であった。 ■ ●●県においては、予防接種でのディスポの使用は遅かったと記憶している。 ■ 当時の予防接種は市町村での実施が大半で、一部で医療機関において予防接種を実施していた。 ■ 正確な時期は覚えていないが、保健所長として、市町村長や医療機関に対して注射針・筒を使いまわさないよう指導をしていた。しかし法的な強制力はなく一般的な推奨レベルであり、最終的には市町村長や医療機関の判断であった。

D	<ul style="list-style-type: none"> ■ B型肝炎に関する情報を収集したのは、昭和 52（1977）年 4 月～昭和 63（1988）年 3 月の間である。詳細時期は不明である。自分自身は昭和 55（1980）年に保健所勤務となった。 ■ 情報収集については、公衆衛生学会等の論文や雑誌などで把握した。 ■ 国や都道府県などから保健所に通知等はきたが、いつごろどのような内容であったかは覚えていない。 ■ ●●県として特にディスポの普及が進んでいたということはない。 ■ 保健所管内の特定地区で肝炎の発生が問題とされ、昭和 50 年頃より「肝炎特別対策事業」が大学（内科学教室）、行政、保健所の連携で調査がなされたが、原因は特定できなかったと記憶している。 ■ 一般的な指導として注射針・筒を使いまわさないように市町村へ口頭で指導したことはある（時期は分からない）。しかし国の通知がない限り強制力はなかった。
---	--

以上